



学校教育と連携した遊休農地対策

中間農業地域

たきちょうせいわ

たきちょう

多気町勢和地域資源保全・活用協議会（三重県多気町）

- 本地域では、従来から地域が連携して実施していた子どもの農業・農村の体験学習が継続的な取組となるよう、地元小学校と連携し、オリジナルコミュニティ・スクールとして実施。
- 本制度により、遊休農地を解消し、体験学習の場として整備。地域で話し合い、学習プログラムを作成し、郷土史学習や食農体験学習を実施。
- 子どもと地域社会とのつながりが深まるとともに、地域の多様な人々の活躍の場も創出。遊休農地の発生を抑制するとともに、獣害等の発生も防止。

【地区概要】

- ・取組面積 700ha（田480ha、畑220ha）
- ・資源量 開水路86.6km、農道87.5km、ため池8箇所
- ・主な構成員
農業者、営農組合、自治会、改良区、
学校・PTA、図書館 等
- ・交付金 約21百万円（H29）
（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

活動開始前の状況や課題

- 本組織は、旧勢和村の全10集落がまとまって、平成19年度に設立。
- 従来から地域が連携し、子どもに農業・農村の体験学習を実施していたが、継続的に取組ができるよう、平成25年度からは、地域住民が学校運営に参画するオリジナルコミュニティ・スクール「SOCS※ おまめさんかなあプロジェクト」として地元小学校と連携して取り組むこととなった。

（※SOCS: Seiwa Original Community Schoolの略）

- 一方、小学校周辺に遊休農地があり、獣害や火災発生のおそれがあった。



小学校の側にあった遊休農地

取組内容

- 小学校周辺の遊休農地を解消し、体験学習の場として整備。
- 小学校と図書館、協議会、ボランティアからなる構成員（SOCSスタッフ）が話し合っ「SOCSおまめさんかなあプロジェクト」の総合学習プログラム（平成28年度は52時間）を作成。
- 地域の歴史的かんがい用水である立梅用水を題材とした郷土史学習や、大豆等の栽培から収穫、加工、伝統食づくりまでの体験学習を本プロジェクトとして実施。



水土里サポート隊の協力の下、遊休農地を解消



立梅用水を題材とした学習「水の道調べ」

取組の効果

- 本プロジェクトによって、子どもの農業や郷土への関心、地域社会とのつながりが深まっている。また、本組織の構成員である土地改良区や小学校、図書館等が連携することで、地域の多様な人々の活躍の場の提供にも貢献。

〔・本プロジェクトに参加するボランティアは46人中37人が女性（平成28年度）
・年間参加児童数は延べ2375人（平成28年度）〕

- 本プロジェクトを通じて、遊休農地の発生を抑制するとともに、獣害等の発生も防止している。

〔・遊休農地解消面積：35a〕



大豆畑の草取り



大豆を使った豆腐やきな粉、みそ作り